

建学の精神 『質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す』(昭和57年11月1日)	
校 是 誠 実 意 欲 創 造	
教育目標	重点目標
1. 真理を探究し、平和を尊び、自主的に行動する力を身につける。	1. 基礎・基本を重視して学習に取り組む意識を高め、学力の充実を図るとともに、生徒の希望する進路実現を目指す。
2. 身心を鍛錬し、不屈の精神を養う。	2. 生徒会活動やクラブ活動等をさらに活性化し、生徒一人ひとりが達成感を得ることのできる学校づくりを目指す。
3. 勉学に励み、品性を陶冶する。	3. 保護者・同窓会・地域・学校評議員との連携、協働による開かれた学校づくりを目指す。
	4. すべての生徒と職員が安心して過ごせるよう、規範意識を高め、いじめ・体罰を許さない、安全な学校を造る。

評価項目	評価の観点	評価(%)※				現状・経過	成果・課題	改善策・向上策	分掌一覧
		A	B	C	D				
自主活動の活性化 (重点目標 2)	着穹祭・クラスマッチなどの学校行事を充実したものにできたか。	53%	41%	0%	6%	文化祭当日、台風で予定を変更せざるを得ない状況にあったが、生徒と顧問間で連絡がスムーズに取れ大満足の文化祭を終えることができた。例年と比べ自主的に動ける生徒が多く、生徒主体で活動できた文化祭であったように思う。	クラスマッチは雨天のため予備日の開催であった。多くの生徒・職員がグランド整備をしてくれた。体育委員長と顧問の先生、体育科の先生方の協力で、円滑に運営することができた。	全校制作を始めて今年で3年目。生徒全員が参加するプロジェクトであり、作品として展示されている文化祭の盛り上げるものであると思っでは非非けたい。昨年度に引き続き前日開催を実施した。どちらがよいのか再度係や生徒で議論し方針を定めていく。	○生徒会係/ 保健・ 整美係 /クラブ 顧問会/ 各学年
	生徒会活動・クラブ活動を活性化させ、田川高校全体の活力を高めることができたか。	35%	59%	6%	0%	今年度は毎週水曜日のお昼に11教室で役員会を開催した。着穹祭シーズンは定例会議があっても良いと思いが、それ以外のシーズンは必要に応じての開催が良い。	役員会などでレジメを使って説明しても大半の生徒が理解できない状況である。今年卒業した3年生にもそうしていたが、3役と本部、文実など重要な役職の生徒を事前に呼んで説明し、理解させた上で役員会を開くと説明を二度する手順が有効。	2学期の期末考査最終日に役員研修会を開催し、役員についての心構えや生徒会スローガン、着穹祭コンセプトについて話し合った。一昔は合宿をしていたように、今後、生徒会の顧問会で検討する。	
	清掃活動にきちんと取り組むよう指導できたか。	24%	58%	12%	6%	分担当所が多いため監督職員の配置が難しかった。トイレの監督を男女別にした。ワックスがけの計画と実施3回は1月31日(木)に、1・2年生は学年末考査後の特設授業中に実施。モップ交換の計画と実施、3回実施。	大掃除の実施は学校行事、PTA行事、授業参観前日などの前に設定した。12月の大掃除では、スマホの回収と運動着の着用を実施した。担任の先生にはご苦労いただいたが、集中して掃除に取り組むことができたように思う。	今後の課題。清掃分担当所の精査をする。(毎日やる必要のない場所を決めることも必要と思われる。)大掃除の重点項目を具体的に提案する。清掃用品の消費は前年より多少増加、ゴミ袋は一時期より減少。ゴミ袋は一層の減化につとめたい。	
開かれた学校づくり (重点目標 3)	PTA・同窓会と連携して、魅力のある、地域から信頼される学校づくりを進めることができたか。	20%	53%	27%	0%	6月12日～7月13日の期間中に16地区で地区懇談会を開催することができた。保護者の参加者数(22)名を余り、参加率は約29%であった。役員選出や委任状については昨年より明確に周知したが、2年生の家庭の出席が少なかった。	地区懇談会の役員選出が難航した地区もあり、引き続き課題である。現在、塩田・箕野・上伊那・諏訪地区に入っている橋川中ブロッコリーについては、平成31年度から塩田西部・木曾地区に変更する方向で検討する。	参加者からは有意義な懇談であったという評価もあるが、形骸化の懸念もあつた。参加者の数や本役員や担当教員のみを考えると、現状のままでは継続すべき検討が必要である。	○教務係/ PTA・同 窓会係
	webページ・各種通信・公開授業・中学生体験入学など様々な機会をとらえ、田川高校を発信することができたか。	33%	67%	0%	0%	10月19日(金)に授業参観、講演会、学年PTAをセットにした2年目の取り組みとして実施した。今年度は進路アドバイザーの村上 健氏を迎え、「EQ力を高める明るい未来を切り拓こう」と題する講演を聞き、内容については好評であった。	本校PTA会報第70号が県高P連からの推薦され、8月の全国高P連佐賀大会の広報誌展示事業に参加、掲示された。	PTA活動の意義や魅力が伝わらな取り組みを模索しながら、参加者を増やす工夫を進める。具体的には早期の連絡周知とオンラインによる繰り返し呼びかけを徹底する。	
規範意識と 自他を敬愛 する心 (重点目標 4)	遅刻指導など、基本的な生活習慣を構築させる指導ができたか。	19%	50%	31%	0%	毎学期ごとに「遅刻ゼロ週間」を設定するとともに、保護者宛通知も発送して、その周知を図り、担任を通じてHRでも指導した。学年・組によって差が見られた。	「遅刻ゼロ週間」中は、意識して遅刻しないようにする生徒が多いが、日常的な改善には繋がっていないといえない。また、遅刻常習者に対する指導も不十分であった。	基本的な生活習慣の確立には、家庭の協力が欠かせないことは勿論であるが、遅刻だけに限らず、予め計画を立てさせ、それを実行し、その後に省みせるといった習慣もつけさせていくことが肝要だと考えられる。	○生徒指導係/ 教育相談係/ 生徒会係/ 教育委員会/ 安全衛生委員会/ いじめ不登校特別支援対策委員会/ 各学
	交通安全・頭髪指導など、モラル・規範意識の向上を図る指導ができたか。	13%	56%	31%	0%	頭髪指導に関しては、年間6回実施することができた。テスト監督中のチェックにより、一斉検査までに改善してしまいう生徒は少なかった。また、頭髪改善に対して反抗的な生徒もいなかった。	遅刻者の指導については、年間3回、各学期末考査前の5～7日間を「遅刻ゼロ週間」に位置づけ、目標日でのチェックを実施した。通常の遅刻状況と比較して、一般の生徒に対して啓発の効果はあると考えられる。	各学年・各クラスには、遅刻常習者が一定数存在し、なかなか改善が見られなかった。今後とも長期的・抜本的な対策や取り組みが求められる。交通安全指導については、終業式の注意事項やHR連絡などで定期的に注意事項を行っている。	
	生徒の人権意識を高め、いじめ・暴力のない学校づくりができたか。	27%	73%	0%	0%	問題行動は昨年度よりも多く発生している。学校全体としては落ち着いた雰囲気であると言え、状況である。内容的にも深刻であり、生徒の人権意識に関する啓発活動はよりいっそう重要かつ必要であると思われる。	件数は減少したものの、加害生徒は多く、13名が反省指導、8名が厳重注意となっている。内容的にも深刻であり、生徒の人権意識に関する啓発活動はよりいっそう重要かつ必要であると思われる。	昨年度、「生徒によるスマホに関するルール」が定められたが、1・2年生を通じて、生徒会本部や委員会を中心として、生徒会活動のあるものにすると同時に、日常的に指導できる態勢を整えていく必要を感じている。	
	生徒個々の内面に寄り添って相談にのり、生徒の心身の健康を保つための支援ができたか。	38%	62%	0%	0%	様々な健康課題を持つ生徒が多く、専門機関、専門家へ繋げた生徒もいた。それほどではないが、自己管理や健康の維持増進を図ることが困難な生徒も少なくなく、遅刻・欠席・早退や保健室来室者も多かった。	相談係会により、担任・学年会・相談室・保健室からの情報共有と対応の協働を行った。必要と思われる生徒保護者に対しカウンセリングを実施したり、専門家へ繋いで学校生活が改善された生徒も複数あった。一方で専門家へ繋げるのが困難なケースもあった。	担任・教科担当・クラブ顧問・保健室などでキャッチした情報を学年会や相談係会で十分かつスピーディに共有し、対応の協議をする。担任一人一人に任せず、チーム支援体制をさらに強化していく。校内研修などで教職員の相談スキルの向上を図る。	

【達成度】 A: ほぼ目標を達成した B: どちらかといえば目標を達成した C: どちらかといえば達成できなかった D: 達成できなかった

※ 評価は全職員による